

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201499		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	兵庫県神戸市西区前開南町2-13-6		
自己評価作成日	令和5年5月31日	評価結果市町村受理日	令和5年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2875201499-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然が多く風や匂い、目で季節を感じることができる。 食事は手作りで、入居者様と「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念のもと一緒に調理や片付けを行っている。 ご家族様とは日頃より連絡を取り信頼関係が築けている。 医療連携体制が整っており、緊急時にも速やかに主治医の協力が得られ、看取りも行っており入居者様が健康で安心して生活できるように支援している。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者主体の支援が心がけられており、個々の利用者の意向を踏まえた支援の提供に努められています。利用者の状態変化については、家族との密な連絡を大切にされており、利用者と家族の意向を踏まえた支援の提供が心がけられています。コロナ禍の制限下において、面会等が不足する部分を、管理者からの密な連絡で、家族等も安心されている様子がうかがえました。外出困難な状況下でも、自然豊かな施設周辺の散歩等、気分転換と外気や自然に触れる機会の確保が行われていました。近隣施設と協働で、地域における災害時対策への取組や、利用者交流等が行われています。コロナ禍の制限下において、対外的な行事や支援が困難であった時期は、食べて楽しむことを中心に施設内行事やイベントの拡充に努められていました。外に出られなくても施設内で少しでも利用者が楽しめる生活環境に提供が意識されていました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーに掲示しており、管理者と職員は基本姿勢として共に心に刻み、毎日の実践につなげている。	毎日の申し送り前に基本姿勢の確認が行われており、日々の支援の中でも理念に沿った支援の提供が行われているか意識されています。日々の支援の中の具体的な場面で、理念に沿ったかわり方や支援の仕方を伝えることで、理念を意識したサービス提供に繋がるよう努められています。	コロナ禍の制限緩和に伴い、施設本来の理念に沿った支援の再開、拡充に期待します。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響でまだまだ地域とのつながりは不十分ではあるが市民花壇の植え替えや水やりは地域の高齢者施設の方と一緒に継続して行っている。毎週火曜日の地元野菜の販売にも出向き購入している。	近隣の他福祉施設と協働で、災害対策を含め協力体制の構築に努められています。近隣の市民花壇が交流の場にもなっており、地域イベント等にもさんかされています。近隣散歩時にも挨拶や声かけが行われ、地域と顔なじみの関係性構築に努められています。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の見学はまだ行っていないが、地域の方と話をする機会がある時には認知症についての相談を受ける時がある。	/	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は前年度1回、今年度より通常に行っている。意見や要望は取り入れている。	コロナ禍の制限下においては、運営推進会議メンバーに資料配付が行われ、施設状況の共有が図られていました。制限緩和後は、対面での開催が再開されており、利用者・家族等の参加も再開されています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の福祉課や保険課の方とは連絡を取り、利用者に関わることについての相談や報告など連携をとっている。	地域マップの作成、市民花壇での活動等が、あんしんしこやかセンターとの協働で行われています。従前は、地域のあんしんすこやかセンターとの協働で、地域啓発活動に参画されたりされていましたが、コロナ禍の制限下において、困難な状況でした。	

自己 評価	第 三 項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間教育に取り入れ、研修に参加し理解を深めるとともに丁寧な言葉かけを日頃より行いスピーチロックや不適切なケアの無いよう話し合い取り組んでいる。	年2回行われる職員研修では、職員自身も振り返りや再認識が出来る内容で運用されており、普段の支援を振り返る機会にも繋がっています。委員会が定期的に開催され、委員会の内容は、施設内で共有されています。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受講し、日々の介護についても不適切なケアになっていないか再確認を行い互いに注意が出来る取り組みに努めている。	利用者の権利制限が虐待に繋がるという認識の基、利用者の尊厳を損なわず、普段の何気ない言動から虐待に繋がっていくという意識で支援の提供に努められています。研修の際には、必ず職員の研修報告書が提出されており、振り返りと再認識の意識付けに繋がっています。	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は組織内外の研修にて学んでいる。入居前や入居後においても必要に応じてご本人が制度を活用できるように支援している。	職員研修でも権利擁護のあり方について、話し合いが持たれています。利用者家族から権利擁護に関する相談があった場合には、利用者の現状を含めた選択肢を提供するなど、適切な情報状況に努められています。	
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居利用契約書・重要事項説明書にそって説明を行っている。 入居後は疑問があれば十分に納得いただくよう説明し、入院時などは再度説明を行っている。	契約時には、解約やお金に関することなど、トラブルに繋がりがやすい部分を中心に丁寧な説明が心がけられています。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応を行い意見や要望をお聞きし運営に反映させている。また運営推進会議での報告を行いその場で出た意見を反映させている。	コロナ禍の制限下においては、従前のような意見聴取の機会確保が困難であるため、電話での連絡時等を中心に、意見をくみ上げることが出来るよう努められています。制限緩和に伴い、聴取機会の拡充が予定されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案等があれば毎月の管理者会議で報告し組織全体で把握し反映させている。	職員の意見を基に、入浴スケジュールを変更し、利用者へのかかり方や、利用者への支援を拡充できるように改善された事例が確認できました。各ユニットで職員からリーダーあるいは管理者に意見があげやすい環境作りに努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記と同様に管理者会議で代表者に報告する機会があり、職員各人が働きやすい職場環境や勤務条件などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修が受講できるよう職員の知識向上に努めている。ケアの質について、出来ていない、力量不足が見られた場合は、その場で指導を行い、知識、技術を身に付ける様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会をはじめ近隣施設の会議に参加し情報交換することで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等をお聞きし、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人、家族様に馴染のある物、好きなもの等、詳しくお聞きし安心できる環境を整えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事や不安なこと等の相談を受け関係づくりに努めている。 入居時からしばらくの間は生活の様子を細かく伝え情報を共有している。		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人と家族様の必要なニーズを見極め対応に努めている。 他のサービス利用についても説明し、本人様の能力に合わせた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が持つ現存能力を活かし出来る事やしたい事を見守りや介助で共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りと近況報告で面会ができない時でも様子がわかるように 面会時の会話等でコミュニケーションをとり何かあればすぐに連絡をしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話をお持ちの方は電話で話をしたりホームにかかってくる電話はお繋ぎしている。年賀状や手紙を送ったり関係が途切れないよう支援している。	コロナ禍の制限下において、直接の面会や面談、外出が困難であり、電話や手紙による交流拡充での関係性維持に努められていました。制限緩和に伴い、可能な事から交流や外出の拡充が予定されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などの日課やレクでは利用者様同士が協力しながら関わり合えるよう支援している。相性にも配慮し、座席などにも気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も折に触れ連絡を取り、家族からその後の経過を聞くなど必要なアドバイスをするなど努めている。		

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるようコミュニケーションをとりながら把握に努めている。 難しい方については、ご家族に伺ったり表情などから理解できるように努めている。	意思疎通が困難な利用者には、表情や動きから、利用者本人の意向をくみ上げ、適切な支援の提供が出来るよう心がけられています。利用者とのコミュニケーションの中で、意向や思いを把握していくことに留意されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人ご家族から伺い情報を得ているが、日常のコミュニケーションからも情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身の状態や有する力等を日々の記録や観察から把握するよう努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや、定期的にサービス担当者会議を開き、気づいた事があれば話し合い現状に即した介護計画を作成している。	状態変化があれば、都度話し合いが持たれ、必用に 応じた計画の変更が行われています。モニタリングは毎月実施され、3ヶ月に一回のサービス担当者会議によって、複数職員関与の下で計画の策定に繋がられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子・気づきなどを個別に記録し、申し送りノートを活用し職員間で情報を共有することで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズには、可能な限り対応できるように取り組んでいる。		

自己 者 第	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や清掃活動、市民花壇の水やりを行っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人家族様の意向をお聞きし主治医を決めている。家族様の協力を得ながら外部受診もやっている。必要時は家族様と相談し専門医の受診ができるよう支援を行っている。	利用者家族の意向を尊重したかかりつけ医の決定が行われています。提携医療機関から、毎月2回の往診があり、形成外科医による往診も行われています。利用者毎に必要な専門医については、外部受診が行われています。必要に応じた訪問看護による支援も活用されています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制を整えており、常に連絡が取れる体制をとっている。日々の関わりでの気づき異変には、速やかに看護職に相談し必要時は訪問看護を利用できるよう支援している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーで情報提供をし家族様からの相談があれば病棟NSやSWと連絡を取り意向に添えるよう支援している。退院時はSWと連絡をとり、速やかに受け入れられるよう対応している。	入院時には、必要な情報提供が速やかに行われています。入院中は、医療機関との情報共有が行われ、退院に備えた情報共有に努められています。退院前には、情報提供を受けると共に、電話等で直接に情報収集が行われ、退院後の支援計画の策定に繋がっています。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し、元気なうちに本人や家族様の意向を確認するよう努めている。日々暮らしていく中で必要時には、本人、家族様、主治医と話し合い支援を行っている。	重度化終末期に関する指針が示され、同意を得られています。看取り対応も行われており、終末期には、利用者や家族の意向も踏まえた話し合いで、終末期支援の計画や方針が策定されています。	

自己 評価	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応マニュアルに沿って研修で学び、看護師や主治医にアドバイスを求めて応急手当の実践力を身に着けるよう努めている。		
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時と水害を想定した避難訓練を各年2回実施している。地域の方へ応援要請できる体制も築いている。	備蓄品は、水、食料、消耗品、カセットコンロ等備品が準備されており、災害発生時は同法人内施設全体で、速やかに必要な施設へ共有融通する体制となっています。火災対応の避難訓練と水防法指定施設としての訓練が行われています。近隣の他福祉施設と協働での避難や体制の構築が進められています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・職業倫理研修を行い、理念のもと一人ひとりの自尊心を大切にされた言葉かけなどの対応に心掛けている。	接遇研修が行われています。職員全体で、利用者の尊厳を尊重し、言葉かけや動作によって、尊厳を損なわないよう、心がけた支援の提供に努められています。利用者への声かけは、周辺の状況により、声かけの仕方や表現を使い分け、また、利用者が羞恥心を持ちやすいケースでは、利用者の意向を確認した上で、意向に沿った配慮が行われています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を聞き、コミュニケーションを取り表情からみて自己決定ができるように働きかけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などを考慮し、無理強くない一人ひとりのペースに沿った支援をしている。		

自己 者 第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや意向を知ることにより更衣時には職員がアドバイスしおしゃれを楽しんでいただき毛染めの支援も行っている。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや量、形状等個別に把握して提供している。利用者様の出来ること、得意とされることに応じ、調理の下準備や食器洗い、食器拭きなど役割を持っていただけるよう支援している。	食イベントで、利用者参加型のものが積極的に取り入れられており、利用者の役割意識や自己存在感の肯定に繋がる取組が行われています。年2回行うバイキングでは、利用者も楽しみにされており、メニューの工夫や提供方法の工夫も行われています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量をチェック表にて把握している。摂取量が低下している時は、摂取しやすい工夫や主治医に相談している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯ブラシや口腔スポンジ等、利用者様に応じて支援している。週1回の訪問歯科による口腔ケアや指導があり本人様に合った支援をしている。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し失禁に至る前の誘導が出来るように努めている。また状況により、主治医と相談のもと下剤の調整をできるだけトイレでの排泄を支援している。	特に排泄自立の維持に配慮され、利用者自身で行えるうちは、必要のある最小限の支援にとどめられています。排泄支援が必要な利用者には、適切なタイミングと声かけを行う事に留意し、トイレでの排泄を維持できるよう配慮されています。利用者が羞恥心を抱かないよう、声かけや誘導時には利用者の意向を尊重した配慮に努められています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、個々に応じた水分摂取や適宜運動を取り入れ対応している。便秘が続く場合は主治医に相談している。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の体調に合わせて週2回入浴して頂くようにしている。ご本人様の希望で午前中の中の入浴や入浴日でない日も入って頂くよう取り入れている。	入浴自立の維持に配慮され、安全性の配慮からの関与と、一部介助にとどめる支援が行われています。入浴介助が必要な利用者には、利用者に負担がかからないよう配慮した支援の提供に努められています。利用者の羞恥心に配慮し、入浴自立されている利用者には、浴室外部からの様子観察や声がけにとどめるなど、最低限の関与にとどめられています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状況に配慮しながら、休息がとれるよう対応している。居室で過される場合は定期的に訪室し安否確認を行っている。夜間、眠れない利用者様には、リビングで会話するなど対応している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況がわかるようにしている。服薬は利用者様に応じた対応をしている。薬の変更に伴い症状の変化があれば速やかに主治医に報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や食べ物の好みなどを本人や家族等から情報を得て日々の支援に活かしている。レクリエーションでは楽しんで頂けるよう毎月工夫をしている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くのコンビニに買い物に行くなど支援している。馴染みの場所や外食は家族に協力して頂いている。	コロナ禍の制限下において、積極的な外出や遠くへの外出は困難でしたが、近隣コンビニへの買い物や、施設周辺散歩等、可能な範囲での、利用者意向に沿った外出支援に努められていました。制限緩和に伴い、従前行われていた外出の拡充再開が予定されています。	

自己 者 第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人が自販機で好きな飲み物を買えるよう支援している。希望の品は購入できる体制を整えている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話をお持ちの方は好きな時に電話で話をしたりホームにかかってくる電話はお繋ぎしている。年賀状や手紙を送ったり支援している。</p>		
52 (23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様に確認しながら、自然の光・風を取り入れたり空調管理を行っている。利用者様と一緒に壁などに季節感のある飾りつけをするなどの工夫をしている。</p>	<p>温度・湿度・換気・清潔保持に留意され、過ごしやすい共用空間となるよう努められています。壁面装飾は、季節に応じたものを心がけ、利用者が季節感を感じるきっかけにも繋げられています。利用者の作成した作品等も飾られています。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの配置に工夫し居心地の良いスペースで気の合う方同士で過して頂いている。座席については、気の合う利用者様同士を考慮し居心地の良い工夫をしている。</p>		
54 (24)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に、本人、家族様への説明で馴染みの家具・品を持って来ていただき、ご本人が安心してくつろげる居心地の良い環境作りの工夫をしている。</p>	<p>写真や備品・調度品など、利用者が思いのあるもの、大切にされているものが、持ち込まれています。居室内のレイアウトは、利用者の思い思いで使いやすい工夫が行われています。居室内は利用者自身の意向を大切にされており、職員の押しつけによる清掃や整頓関与は行わないよう配慮されています。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下の手すりを利用することで、安全な歩行を支援している。居室においては家具やベッドの配置を工夫し安全な同線を確保するよう配置に工夫している。個人の能力を理解し、し過ぎない支援に取り組んでいる。</p>		